

6月定例会が、6月9日～22日までの間に開会されました。  
私、稲葉健二も下記内容の一般質問を致しました。関係者の方から、丁寧なご答弁をいただき、よりよい街づくりのために、行政と一体となって努力して行く決心を新たに致しました。

●市川市における障害児支援について

- ①こども発達支援センターの設置における組織と運営について
- ②今後の障害児への支援と母親（保護者）支援について

現在、平成 17 年度に「こども発達支援センター」の開設を目指して、総合福祉センターの改修工事が着工しようとしています。保護者の方が、こどもの発達の悩みなどを気軽に相談でき、それに対して適切な助言を受けられることができます。既存の「松の実学園」を移転し、「みどり学園」、「ことばの相談室」を機能統合して、平成 17 年 4 月よりスタートする予定です。相談窓口が一元化、専門支援が充実、外来療育相談の充実、関係機関との連携が進むなどのメリットがあり、大変期待できる施設です。

②に関してですが、障害児支援の最も大切な点は、発達評価の正しい理解を保護者と確認するところから始まります。そして、障害児本人への発達支援の援助はもちろん、保護者への子育て支援も行わなくてはなりません。そのような中で保護者自身も発達や障害に関する理解を深めることが大切だと思います。そして、その理解の中で子どもを育てる喜びを見出せるような支援、援助ができるようにしていきたいと考えています。



●市川市の障害者の就労支援について

- ①市川市障害者職場実習奨励金と市川市雇用促進奨励金の拡充について
- ②働く障害者への支援方法について

現在、市川市の障害者就労支援の施策の中に、障害者の職場実習受入れ先の事業所に支払われる「市川市障害者職場実習奨励金」と障害者、高齢者、母子家庭の母親を雇用する事業所に支払われる「市川市雇用促進奨励金」があります。この奨励金の額に関しては、もう少し多くしていただき、もっともっと弱者の方が就労できるように働きかけたいと思っています。また、就労先の紹介を職安に限らず、商工会議所、市川市障害者就労支援センター「アクセス」などリンク先を増やし、弱者の方が就労先を見つけやすいようにすることにも努力していきたいと思っています。

●市川市公共サイン（案内標識）の設置について

- ①現状のサイン（案内標識）の問題点について
- ②サイン（案内標識）の今後の役割と必要性についての市川市の考え方と方向性

市川市って、公共サインが少ないと思いませんか？市庁舎を含め、多くの公共施設が集中している八幡にも、その公共施設へ誘導する案内標識がありません。JRの駅や京成の駅を降りてから、どの方面に行けば目的の施設へ行けるのか、大変不案内だと思います。

特にここ数年、回遊展という形で地元を紹介しているのですから、水木洋子邸や芳澤ガーデンギャラリー、木内ギャラリーに最寄の駅から迷わずに行けるような案内標識は絶対必要です。また、駐輪場、駐車場の案内標識も重要だと思います。

住みよい街づくりのためにも、行政に働きかけて案内標識の設置に努力していきます。できれば、統一された基準で景観的にも利便性にも優れた市川独自の市川らしい、人に優しい公共サインの設置に努力します。

●市川市の私立幼稚園への補助について

- ①公・私立幼稚園保育料の格差是正のために私立幼稚園児補助金の増額について
- ②3歳児保育に対する市川市私立幼稚園幼児教育振興費補助金のあり方についての市の考え方について

現在、市川市の幼稚園における公・私立の保育料の格差は、最高で約 2.6 倍、最低で 1.45 倍あります。この格差の是正に直接つながる補助金として、私立幼稚園に通う園児のために「市川市私立幼稚園児補助金」があります。また、家庭の所得の額に応じてですが、「就園奨励補助金」の制度もあります。大変ありがたい補助金ですが、隣接している市・区に比べ見劣りしているのも事実です。少子化の中での子育て支援のためにも、補助金の増額を働きかけていきたいと思っています。

また、先の補助金及び幼稚園設置者に対する「市川市私立幼稚園幼児教育振興費補助金」などには、その制度ができた年代が2年保育主流だったという事情で、3歳児に対しては額が少なかったり、算定基準の対象になっていなかったりという現実があります。3年保育が幼稚園の主流となっている今、そんな格差も是正していかなくてはなりません。稲葉健二、次代を担う子どもたちのために、ますます頑張ります。